



五日市

まちづくり通信

3月号
令和4年

【編集発行】

五日市活性化戦略委員会
まちづくり通信チーム
市民有志のみなさま

五日市・増戸・戸倉・
小宮地区の
40自治会で配布中!



かつての五日市の特産品、黒八丈を甦らせる 糸工房「森」・主人 森博さん

糸工房「森」は、元は昭和17年に創業した絹糸屋。今も手術用の絹糸などを製作しています。

三代目の森博さんは、35年程前に町史から五日市



「張り燃り式八丁燃系機」という、国内に数台しか残されていないという貴重な燃系機を使用するために、工場の奥行きは40メートル近くあります。

が泥染めの名産地であったことを知りました。かつて盛んだった黒八丈がなぜ廃れたのか? 「それが世の流れ」という考えが嫌で、黒八丈の復活への挑戦を決意したそうです。

「黒八丈」とは、江戸時代に全国的な人気を誇った秋川流域の絹織物で、八丈島の「黄八丈」、奄美大島の「大島紬」と

並ぶ泥染めの一種。ヤシヤブシの木の実と秋川の泥を使って染め上げます。

染めに使用するヤシヤブシの木は五日市に多くみられ、その実に含まれるタンニンと化合する鉄分は、五日市の泥に多く含まれます。その二つが化合して黒色に染まる理論はわかるけれど、実はいつ頃のものを使用するか、泥を掬う方法をどうするかなど、試行錯誤



糸工房「森」主人の森博さん。

誤を繰り返しました。地元物を使用して作品を作りたい、地元を盛り上げたい、という森さんの熱い想いが実を結び、数年かかってようやく、深い中にも照りがあり、深みのある色合いの見事な黒八丈が完成しました。

今では五日市の特産品として、江戸の粋がわかる方々に愛されています。昨年にはNHKワールドで海外放映され、五日市の黒八



丈というブランドが世界に知れ渡りました。

地元を愛する森さんのもう一つの活動に、増戸地区の「紫つじの里構想」があります。この活動は、紫つじ(ミツバツツジ)を街中に植えようという、市の観光協会事業として始まりました。現在は増戸地区の

住民の活動に委ねられ、40人ほどの里親さんが種から苗を育て上げて、住民に差し上げたり、街路に植えたりしているそうです。

増戸地区にたくさん紫つじを植えて、通りに人の流れを作りたい、という努力が花開き、街が活性化することを願っています。



黒八丈の作品。現在は「五日市染」と名付けられています。何度も染めを重ねること、深みのある黒色が醸し出されます。

アクセサリー類は、黒八丈の他に草木染の作品もあり、工房で販売されています。

糸工房「森」

【住所】あきる野市伊奈1129

【電話】042-596-0250

【営業時間】9:00~18:00

【定休日】不定休

(お越しの際は事前にご連絡を頂けると幸いです。)



五日市高校 ESS 国際交流部より



今年高校生プレゼンテーションコンテスト
最優秀賞を受賞しました

五高から世界に発信
したい森の音楽プロジェクト

森は遠く地域と協働して高校生の地域のために出来ることを考えて活動しています。その一つに五日市高校同窓の地域の清掃活動があります。森や川を歩き、ゴミを拾って活動していく中で出会ったのが活動のキーマンである五日市在住の羅久保さんです。そして羅久保さんを通じて森のシンカークラウドの山田証広を紹介していただきました。今回、高校生と五日市に関わる人々から「クラウド」してSDGsの学生員に向けて新作の世界に発信するプロジェクトを始めたいです。



紹介



今回、この曲を改訂して世界に発信できるようにするために

皆さんとこの世界に発信したい森の音楽プロジェクトをスタートさせたい!



Twitter

Instagram

LINE

世界に発信したい日本の精神
「おたないない」をテーマに!
曲の制作プロジェクトを
発表します!!

五日市高校 ESS 国際交流部とは…五日市を訪問する外国人向けの観光案内や異文化交流、ボランティア活動等、地域と深く関わりながら、高校生ができる社会貢献活動を積極的に行っている部活です。私たちと何かに活動して下さる地域の皆様、是非、お声かけください!